

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	389350011
法人名	医療法人 河辺整形外科
事業所名	グループホームひなたぼっこ
所在地	伊予郡松前町大字西高柳267-1
自己評価作成日	平成27年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年6月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「焦らず・怒らず・諦めず」の理念を念頭に置き、優しい介護が提供できるよう心掛けている。利用者様のできることでできないことを把握し、できないことはお手伝いし、できることは自分で又は一緒に行うようにしています。利用者様の笑顔がみられるよう、精一杯の努力をしたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は家庭的な雰囲気の中で利用者が穏やかに過ごせるよう、管理者、職員共に理念に沿った利用者の日々の暮らしを支えている。開設時から地域の方との協力を得られており、地域の行事に積極的に参加し交流を深めている。小学生との交流もあり、運動会、すもう大会等に招待されるなど、利用者の楽しみの一つとなっている。食事は手作りで、畑で採れた野菜を使って調理しており、完食される利用者が多い。医療面でも利用者のかかりつけ医を受診できるよう支援しており、看取りも行っている。24時間医療連携体制が整っており、利用者、家族共に安心感を得られている。また、季節に応じてお花見等に出かけたりドライブに行ったりしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームひなたぼっこ

(ユニット名) あおい

記入者(管理者)

氏名 藤川 勝

評価完了日 平成27年5月13日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 焦らず、怒らず、諦めずの理念を基本に優しい介護の実践に努めている。</p> <p>(外部評価) 開設時からの理念を大切に継承している。「決して焦らず、怒らず、諦めず」という理念を事業所のよく見える場所に掲示し、管理者、職員共に共有して、利用者の日々の暮らしの中で、ケアに活かしながら実践している。昨年職員の入れ替わりがあり、利用者も落ち着かない状態が見られたようだが、現在は穏やかな表情で過ごしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 民生委員の方から、地域の運動会や相撲大会などご招待頂き、参加させていただいている。またクリスマス会などでは、小学生や地域の方に参加いただき皆さんで楽しまれている</p> <p>(外部評価) 開設時より地域の人々と良好な関係ができており、運営推進会議や回覧板から情報を得て、地域の行事にも積極的に参加している。特に近くの小学校で開催される運動会や相撲大会に出かけたり、事業所が開催するクリスマス会には先生と生徒が訪れて太鼓を披露するなど、小学生との交流は利用者の楽しみの一つとなっている。また、利用者が近所を散歩をする際には、近所の方が気軽に声をかけてくれるので、以前実施していた「ふれあい納涼祭り」を再開させたいと考えている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域行事の参加や、近隣の方と入居者さんが散歩の時にお話をされたり、スタッフが利用者の介護を行うことで認知症介護の啓蒙活動につながると考えている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議では、ホームの活動報告と活動計画、事故など様々な事柄について報告し、ご意見をいただきサービス向上にいかせるよう心掛けている。	
			(外部評価) 運営推進会議は区長、民生委員、町及び地域包括支援センターの職員、介護相談員が参加して開催されている。会議では、事業所の現状報告や活動報告の後、参加者との意見交換が行われている。地区担当民生委員はいつも複数名参加しており、協力的で地域の情報を提供してくれている。参加した民生委員は、困難な状況の中で、職員が力を合わせてよりよいケアの提供に努めている様子を理解し、応援をしてくれている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村とは連絡を密にし、困ったときは助けていただいている。	
			(外部評価) 町及び地域包括支援センター職員は、運営推進会議に参加し情報提供や運営の助言を行っている。事業所が開設してから積み重ねてきた地域交流の努力を評価し、繋がりを大切にするよう助言し見守っている。また、介護相談員や傾聴ボランティアが月に1回来訪し、利用者の話に耳を傾けてくれており、利用者にとっては心強い存在となっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の勉強は、継続して行なって行く必要があると思う。基本的には行っていないと考えているが、スタッフと日々話し合いながら介護を行っている。	
			(外部評価) 身体拘束のマニュアルがあり、管理者をはじめ職員全員が理解の上、身体拘束をしないケアに取り組んでおり、昼間は、玄関を施錠せず自由に出入りできるようになっている。利用者に不穏状態が見られても、職員が見守ることに努め、必要以上に薬を服用しなくても済むよう調整している。身体拘束をしないケアを念頭に利用者の安全を第一としたケアに努めている。	言葉の拘束も含めた身体拘束についての勉強会を繰り返し行い、利用者ケアの質の向上に継続して取り組むことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法律について十分理解できてかは疑問があるが、職員間で防止に努め、虐待や不適切な対応はないと思っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在対象者はいない。今後学習していく必要があると思う。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際、十分な説明を行いご理解いただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見や要望については、施設内で速やかに対応するよう心掛けている。また事前に状況や改善内容は連絡している。 (外部評価) 利用者の希望や意見は、日々の暮らしの中で聞き取るように努めている。家族の来訪も多く、面会時に要望等を聞くよう心掛けている。知り得た情報については、職員で話し合いを持ち対処するようにしており、結果については家族に報告するようにしている。管理者は毎月郵送する請求書と共に便りを書き添え、利用者の日々の暮らしぶりを伝えている。また、職員の顔を覚えてもらえるよう、その日出勤している職員の写真を玄関に掲示している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は、日々の業務の中で職員の意見を引き出すよう努めている。場合によっては代表者にも伝えている。	
			(外部評価) 昨年度、管理者及び職員が大幅に交替したため、管理者は職員と共に現場に出るようしており、意見を言いやすい関係ができてきている。また、管理者も職員に声かけを行い、努めて話を聞くようにしている。職場の体制づくりもでき、研修の案内も職員全員に回覧しているが、研修への参加があまりできていないのが現状なので、管理者は、職員が研修を受けやすい環境づくりに努めたいと考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 状況を把握し、環境の整備ができるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 日々の介護のなかで、意味や実践方法を話しながら行っている。また、なるべく研修に参加できるよう努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 町内の同業者との交流を積極的に行っている。入居者さんが以前おられた介護施設の方がスタッフの方と一緒に来所されることもある。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前に本人と面接し、どのように生活したいか確認したりし、信頼関係が築けるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前に、家族の希望や思いを十分聞き信頼関係が築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用開始前にご本人の意向も汲み取り、ご家族からの希望も確認している。スタッフにもその情報を共有し、具体的な対応も状況に応じて説明し勤めている 利用者職員は話をする機会が多く、1対1で話すことも少なくない。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者さんの家であることを念頭に、ご本人の状況を見ながら、一緒に出来ることを行ったり、時々のご希望を取り入れたりしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の方が来所されることが多く、食事の介助をされたり、外出なども一緒に行かれたりしている。介護側の報告だけでなく実際の状況を知っていただき、共に支える意識をお互いに持てるように気をつけている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの方や近所の方の面会はしばしばある。ご本人との話の中で馴染みの場所や言葉などを話題にしコミュニケーション作りも行っている。 (外部評価) 利用者の希望を聞いて、地元の昔懐かしい場所や希望の場所にドライブに出かけ、外出先でアイスクリームを食べたりして利用者にも喜ばれている。地元出身の利用者が多く、知人の訪問もあり、教会の方が迎えに来てくれて日曜礼拝に出掛ける利用者もいる。また、馴染みの美容院に家族と一緒に行く利用者もいるが、訪問理美容を利用している利用者も多い。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々の利用者さんを見極め、リビングでの席も配慮している。食事をしながらスタッフが間に入り話をしたり、出来ることを協力しながら行なって頂いたりしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて継続的に支援できるようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの意向や気持ちを把握できるよう努めている。情報を得るためにご家族の協力をいただく事もある。 (外部評価) 利用者の思いや意向は、日々の会話からくみ取り把握するよう努めており、利用者に変化があれば、記録に残して職員全員に伝えている。また、新たに得た情報は、口頭で伝えたり記録に残し、ミーティングやカンファレンス等でも話し合いを行っており、職員間で共有しケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 職員間で情報を共有し、把握するよう努めている。面会の方には気持ちの良い挨拶や飲み物の提供をし、落ち着いた雰囲気の中で過ごしていただけるよう心掛けている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員間で情報を共有し、把握するよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 職員間での話し合いはできていると思う。必要に応じて家族を交えて話し合い、介護計画の具体的な内容を共有できるように勤めている。 (外部評価) 計画作成担当者が、利用者及び家族の希望を聞いたり、職員の意見を取り入れて介護計画を作成し、1か月に1回モニタリングを行っている。個人の経過表に介護計画も含めており、常に計画を意識しながらケアを行いその実践状況を記載している。利用者の担当制は取っていないが職員の意見は多く、利用者に変化があればその都度話し合いを行い、新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケアプランにそった記録を心掛けており、モニタリングに役立っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて柔軟な対応ができるよう心掛けている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 定期的に傾聴ボランティアさんや、介護相談員さんも来所されている。ご意見を頂いたり、利用者さんの希望があればお聞きし、実現出来るように努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 在宅でかかっておられた医師に継続して診てもらえるよう支援 している。受診時には情報提供を心掛けている。	
			(外部評価) 利用者が、それぞれのかかりつけ医を受診できるよう支援して いる。かかりつけ医の多くは、月2回往診して日常の健康管理 や診療を行っている。また、他の医療機関を受診する場合の付 き添いは家族にお願いをしているが、家族の都合が悪い時や緊 急時には職員が受診に付き添うようにしている。24時間、医 療との連携体制が取られており、利用者、家族共に安心感が得 られている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 異常や心配があるときは、看護職員に相談できる体制ができて おりスムーズに医療につながられている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した場合も病院の連携室と連絡をとり、スムーズに退院で きるよう心掛けている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所のできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に終末期の意向確認をしている。実際に重症化した場合 は、家族・医師・職員とで方針を決定し支援させていただいて いる。	
			(外部評価) 事業所として「終末期の生活支援」を作成しており、事業所での ケアが可能で利用者及び家族が希望するのであれば、終末期 ケアを行うことができることを説明している。また事業所とし て、できることとできないことも伝えている。利用者の状態に 合わせて家族と話し合いを行うようにしており、昨年管理者交 替後に2人の看取りを経験している。家族が泊まって付き添え るよう、宿泊や食事の配慮もしている。	利用者の重度化や終末期は、家族も含めた支援が望ま れる。重度化や終末期を支援するためにも職員の教育 は必須であり、勉強会等継続して行うことを期待した い。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員によって実践力にはバラツキがある。徐々に施設内研修を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練などは行っているが、具体的な地域との協力体制にまで至っていない。 (外部評価) 定期的に昼間と夜間を想定した避難訓練を行っており、内1回は消防署立ち会いの上実施している。自主訓練を行った場合は、訓練状況を写真に撮って消防署へ提出し助言を得ている。また、緊急時の連絡網は、各所に掲示して分かりやすいようにしている。運営推進会議に地域の防災の担当者が参加しており、連携が取れている。備蓄品も常備しており、地域住民には地域の避難所として協力できることを伝えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりを人生の先輩として対応するよう心掛けている。ちゃん付で呼ぶことの無い対応を徹底している。 (外部評価) トイレの誘導時の声かけは大声を出さないようにしており、見守りだけの利用者に対しては、トイレの外で待機する等タイミングをみて声かけを行っている。入浴時にも利用者の恥辱心に配慮し支援しており、利用者に対する声かけもなれなれしくならぬ様気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) スタッフが利用者さんとの話の中で、希望があれば管理者に報告し、実現できるよう勤めている。また本人が話しやすい雰囲気づくりに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入居者さんの生活のペースを理解し、個々の希望する一日が過ごせるよう心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に理容師さんに来てもらっている。日々の身だしなみについては服を選んでもらったり、自分で選べる機会を設けるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者さんに食べたいものを聞いたりすることもある。テーブル拭きや食器の片づけなどできることをしていただくよう心掛けている。お誕生日には手作りのケーキでお祝いし、喜ばれている。	
			(外部評価) 同じメニューにならないよう注意しながら、冷蔵庫の食材や畑の野菜を使って献立を決めている。利用者も野菜の下ごしらえや食器洗いやお盆拭き等できることを職員と一緒にやっている。毎回手づくりの食事を提供しているので、ほとんどの利用者が残さずに食べている。管理栄養士の資格を持つ職員も加わったので、今後は栄養バランスについても配慮できるようになると期待している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の摂食状態に応じて食事形態を変えている。また、使いやすい食器の工夫もしている。水分がとりにくい方には嗜好品を提供したりしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケアはほぼ全員の習慣となっている。また全介助の方には丁寧に口腔ケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 入居時に排泄パターンの把握に努め、その人に合ったトイレ誘導を行っている。なるべくトイレで排泄できるよう実践している。 (外部評価) 利用者の排泄パターンを把握して、昼間はなるべくトイレで排泄ができるよう、声かけや誘導を心がけている。夜間は睡眠を優先する利用者もいるが、訪室時にパットを確認する等、個別に対応している。排便状態についても把握し、緩下剤等を服用して様子を見る場合もある。トイレには男性用の便器も備え付けられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 下剤のみに頼ることなく、食事・運動・トイレに座ることで便秘予防に努めている。必要に応じて下剤は使用するが、できるだけトイレで排便できるようにしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ご本人の希望で、曜日の指定がある方には、毎回その日に入浴していただいている。またお風呂の好きな方には毎日声をかけ希望があれば入浴していただいている。 (外部評価) 入浴については、利用者の希望を聞き対応しており、利用者が希望すれば毎日でも入浴が可能であり、入浴の順番もできるだけ希望に沿うようにしている。なお、入浴が苦手な利用者に対しては、時間をずらしたり、職員を変えるなどしており、気兼ねなく入れるよう支援している。また、特定の親族が声をかけると入浴する利用者もいるので、親族の協力を得る場合もある。浴槽は特殊浴槽も設置されており、利用者の状態に合わせて入浴ができるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の希望に応じて日中も居室で休んでいただいている。夜間の睡眠の妨げにならないよう適度な休息を心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬の際には服薬後チェック表に記入している。個々の薬の作用については個人差があり今後勉強していく。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々笑って過ごせるよう、気分転換ができるようスタッフも笑顔で対応し、入居者さんも笑顔でいられるように支援している	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族の方が外出支援をしてくださることがある。天気の良い日には、庭に出て花の水やりや畑の様子など見て、外の空気に触れられるように支援している。 (外部評価) 天気の良い日は玄関前のベンチでひなたぼっこをしたり、事業所の周囲を散歩したり、また花の水やりや畑に行く等外気に触れる機会を持てるよう支援している。お花見やユニット毎でのドライブ、地元の小学校の運動会やすもう大会に招かれたり、家族と一緒に外出する利用者もいる。	管理者及び職員が交替したため、外出の機会が少なくなっていたが、機会をとらえて外出の機会を増やそうと計画している。今後は、家族の協力も得ながら、外出の機会を増やせるようになることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者様が金銭を管理することはない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者様に手紙が来たときは、代読したり電話をかけて話が出るように支援したりした。本人の希望があるときは家族に電話をかけて話していただくこともある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関入口に花を常に起き、家庭感を出せるよう努力している。また最近の利用者さんの写真を貼ったりし、馴染みの場所であることが認識出来るようにしている。</p> <p>(外部評価) 玄関には季節の花が飾られ、家庭的な雰囲気づくりがされている。また、オープンキッチンからは利用者がよく見えるようになっており、見守りながら調理をすることができる。居間や廊下には利用者の日常がよく分かる写真が飾られている。ユニット間は普段は仕切りがされているが、イベント等行う時には仕切りを外し広くして使用するなど工夫している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) テーブルの椅子に座っていることが多いが、ソファでくつろがれる人もおり、自分の過ごしやすい場所で過ごしてもらっている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 馴染みの家具がある方は持ってきていただいている。個室は自由に飾り付けしていただいている。</p> <p>(外部評価) カーペット、こたつ、座椅子、テレビ、ぬいぐるみ、家具等を持ち込んでいる利用者や、転倒の危険性があるため畳の上に布団を敷いている利用者もおり、利用者に合わせて部屋づくりがされている。また、荷物が充分収納できるクローゼットが備え付けられていたり、壁には利用者と家族の写真や習字等利用者の作品も飾られており、居心地のいい空間となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) バリアフリーの環境の中で転倒などの危険が内容にしている。また下肢の弱い方で夜間のトイレが不安な方には、ポータブルトイレを利用していただいたりしている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893500011
法人名	医療法人 河辺整形外科
事業所名	グループホームひなたぼっこ
所在地	伊予郡松前町大字西高柳267-1
自己評価作成日	平成27年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年6月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「焦らず・怒らず・諦めず」の理念を念頭に置き、優しい介護が提供できるよう心掛けている。利用者様のできることとできないことを把握し、できないことはお手伝いし、できることは自分で又は一緒に行うようにしています。利用者様の笑顔がみられるよう、精一杯の努力をしたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は家庭的な雰囲気の中で利用者が穏やかに過ごせるよう、管理者、職員共に理念に沿った利用者の方々の暮らしを支えている。開設時から地域の方との協力を得られており、地域の行事に積極的に参加し交流を深めている。小学生との交流もあり、運動会、すもう大会等に招待されるなど、利用者の楽しみの一つとなっている。食事は手作りで、畑で採れた野菜を使って調理しており、完食される利用者が多い。医療面でも利用者のかかりつけ医を受診できるよう支援しており、看取りも行っている。24時間医療連携体制が整っており、利用者、家族共に安心感を得られている。また、季節に応じてお花見等に出かけたりドライブに行ったりしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームひなたぼっこ

(ユニット名) さくら

記入者(管理者)

氏名 藤川 勝

評価完了日

平成27年5月13日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 焦らず、怒らず、諦めずの理念を基本に優しい介護の実践に努めている。</p> <p>(外部評価) 開設時からの理念を大切に継承している。「決して焦らず、怒らず、諦めず」という理念を事業所のよく見える場所に掲示し、管理者、職員共に共有して、利用者の日々の暮らしの中で、ケアに活かしながら実践している。昨年職員の入れ替わりがあり、利用者も落ち着かない状態が見られたようだが、現在は穏やかな表情で過ごしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 散歩の時などに利用者さんが近所の人と、立ち話をし相手の方から、「会いに行くから」と言ってもらえる事もある。</p> <p>(外部評価) 開設時より地域の人々と良好な関係ができており、運営推進会議や回覧板から情報を得て、地域の行事にも積極的に参加している。特に近くの小学校で開催される運動会や相撲大会に出かけたり、事業所が開催するクリスマス会には先生と生徒が訪れて太鼓を披露するなど、小学生との交流は利用者の楽しみの一つとなっている。また、利用者が近所を散歩をする際には、近所の人々が気軽に声をかけてくれるので、以前実施していた「ふれあい納涼祭り」を再開させたいと考えている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域行事の参加や、近隣の方と入居者さんが散歩の時にお話をされたり、スタッフが利用者の介護を行うことで認知症介護の啓蒙活動につながると考えている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 会議では、ホームの活動報告と活動計画、事故など様々な事柄について報告し、ご意見をいただきサービス向上にいかせるよう心掛けている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は区長、民生委員、町及び地域包括支援センターの職員、介護相談員が参加して開催されている。会議では、事業所の現状報告や活動報告の後、参加者との意見交換が行われている。地区担当民生委員はいつも複数名参加しており、協力的で地域の情報を提供してくれている。参加した民生委員は、困難な状況の中で、職員が力を合わせてよりよいケアの提供に努めている様子を理解し、応援をしてくれている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市町村とは連絡を密にし、困ったときは助けていただいている。</p> <p>(外部評価) 町及び地域包括支援センター職員は、運営推進会議に参加し情報提供や運営の助言を行っている。事業所が開設してから積み重ねてきた地域交流の努力を評価し、繋がりを大切にしよう助言し見守っている。また、介護相談員や傾聴ボランティアが月に1回来訪し、利用者の話しに耳を傾けてくれており、利用者にとっては心強い存在となっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束の勉強は、継続して行なって行く必要があると思う。基本的には行っていないと考えているが、スタッフと日々話し合いながら介護を行っている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束のマニュアルがあり、管理者をはじめ職員全員が理解の上、身体拘束をしないケアに取り組んでおり、昼間は、玄関を施錠せず自由に入出りできるようになっている。利用者に不穏状態が見られても、職員が見守ることに努め、必要以上に薬を服用しなくても済むよう調整している。身体拘束をしないケアを念頭に利用者の安全を第一としたケアに努めている。</p>	<p>言葉の拘束も含めた身体拘束についての勉強会を繰り返し行い、利用者ケアの質の向上に継続して取り組むことを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法律について十分理解できてかは疑問があるが、職員間で防止に努め、虐待や不適切な対応はないと思っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在対象者はいない。今後学習していく必要があると思う。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際、十分な説明を行いご理解いただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見や要望については、施設内で速やかに対応するよう心掛けている。また事前に状況や改善内容は連絡している。 (外部評価) 利用者の希望や意見は、日々の暮らしの中で聞き取るように努めている。家族の来訪も多く、面会時に要望等を聞くよう心掛けている。知り得た情報については、職員で話し合いを持ち対処するようにしており、結果については家族に報告するようにしている。管理者は毎月郵送する請求書と共に便りを書き添え、利用者の日々の暮らしぶりを伝えている。また、職員の顔を覚えてもらえるよう、その日出勤している職員の写真を玄関に掲示している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は、日々の業務の中で職員の意見を引き出すよう努めている。場合によっては代表者にも伝えている。	
			(外部評価) 昨年度、管理者及び職員が大幅に交替したため、管理者は職員と共に現場に出るようしており、意見を言いやすい関係ができてきている。また、管理者も職員に声かけを行い、努めて話を聞くようにしている。職場の体制づくりもでき、研修の案内も職員全員に回覧しているが、研修への参加があまりできていないのが現状なので、管理者は、職員が研修を受けやすい環境づくりに努めたいと考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 状況を把握し、環境の整備ができるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 日々の介護のなかで、意味や実践方法を話しながら行っている。また、なるべく研修に参加できるよう努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 町内の同業者との交流を積極的に行っている。入居者さんが以前おられた介護施設の方がスタッフの方と一緒に来所されることもある。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前に本人と面接し、どのように生活したいか確認したりし、信頼関係が築けるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前に、家族の希望や思いを十分聞き信頼関係が築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用開始前にご本人の意向も汲み取り、ご家族からの希望も確認している。スタッフにもその情報を共有し、具体的な対応も状況に応じて説明し勤めている 利用者と職員は話をする機会が多く、1対1で話すことも少なくない。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者さんの家であることを念頭に、ご本人の状況を見ながら、一緒に出来ることを行ったり、時々のご希望を取り入れたりしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の方が来所されることが多く、食事の介助をされたり、外出なども一緒に行かれたりしている。介護側の報告だけでなく実際の状況を知っていただき、共に支える意識をお互いに持てるように気をつけている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの方や近所の方の面会はしばしばある。ご本人との話の中で馴染みの場所や言葉などを話題にしコミュニケーション作りも行っている。 (外部評価) 利用者の希望を聞いて、地元の昔懐かしい場所や希望の場所にドライブに出かけ、外出先でアイスクリームを食べたりして利用者にも喜ばれている。地元出身の利用者が多く、知人の訪問もあり、教会の方が迎えに来てくれて日曜礼拝に出掛ける利用者もいる。また、馴染みの美容院に家族と一緒に行く利用者もいるが、訪問理美容を利用している利用者も多い。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員間での話し合いはできていると思う。必要に応じて家族を交えて話し合い、介護計画の具体的な内容を共有できるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて継続的に支援できるよう努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) なるべく一人ひとりの意向や気持ちを把握できるよう努めている。利用者様の気持ちがわからないときは本人の気持ちになって考えるようにしている。	
			(外部評価) 利用者の思いや意向は、日々の会話からくみ取り把握するよう努めており、利用者に変化があれば、記録に残して職員全員に伝えている。また、新たに得た情報は、口頭で伝えたり記録に残し、ミーティングやカンファレンス等でも話し合いを行っており、職員間で共有しケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 職員間で情報を共有し、把握するよう努めている。面会の方には気持ちの良い挨拶や飲み物の提供をし、落ち着いた雰囲気の中で過ごしていただけるよう心掛けている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員間で情報を共有し、把握するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 職員間での話し合いはできていると思う。必要に応じて家族を交えて話し合い、介護計画の具体的な内容を共有できるように勤めている。 (外部評価) 計画作成担当者が、利用者及び家族の希望を聞いたり、職員の意見を取り入れて介護計画を作成し、1か月に1回モニタリングを行っている。個人の経過表に介護計画も含めており、常に計画を意識しながらケアを行いその実践状況を記載している。利用者の担当制は取っていないが職員の意見は多く、利用者に変化があればその都度話し合いを行い、新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケアプランにそった記録を心掛けており、モニタリングに役立っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて柔軟な対応ができるよう心掛けている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 定期的に傾聴ボランティアさんや、介護相談員さんも来所されている。ご意見を頂いたり、利用者さんの希望があればお聞きし、実現出来るように努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 在宅でかかっておられた医師に継続して診てもらえるよう支援 している。受診時には情報提供を心掛けている。	
			(外部評価) 利用者が、それぞれのかかりつけ医を受診できるよう支援して いる。かかりつけ医の多くは、月2回往診して日常の健康管理 や診療を行っている。また、他の医療機関を受診する場合の付 き添いは家族にお願いをしているが、家族の都合が悪い時や緊 急時には職員が受診に付き添うようにしている。24時間、医 療との連携体制が取られており、利用者、家族共に安心感が得 られている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 異常や心配があるときは、看護職員に相談できる体制ができて おりスムーズに医療につながられている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した場合も病院の連携室と連絡をとり、スムーズに退院で きるよう心掛けている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所のできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に終末期の意向確認をしている。実際に重症化した場合 は、家族・医師・職員とで方針を決定し支援させていただい た。	
			(外部評価) 事業所として「終末期の生活支援」を作成しており、事業所 でのケアが可能で利用者及び家族が希望するのであれば、終末期 ケアを行うことができることを説明している。また事業所とし て、できることとできないことも伝えている。利用者の状態に 合わせて家族と話し合いを行うようにしており、昨年管理者交 替後に2人の看取りを経験している。家族が泊まって付き添え るよう、宿泊や食事の配慮もしている。	利用者の重度化や終末期は、家族も含めた支援が望ま れる。重度化や終末期を支援するためにも職員の教育 は必須であり、勉強会等継続して行うことを期待した い。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員によって実践力にはバラツキがある。徐々に施設内研修を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練などは行っているが、具体的な地域との協力体制にまで至っていない。 (外部評価) 定期的に昼間と夜間を想定した避難訓練を行っており、内1回は消防署立ち会いの上実施している。自主訓練を行った場合は、訓練状況を写真に撮って消防署へ提出し助言を得ている。また、緊急時の連絡網は、各所に掲示して分かりやすいようにしている。運営推進会議に地域の防災の担当者が参加しており、連携が取れている。備蓄品も常備しており、地域住民には地域の避難所として協力できることを伝えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりを人生の先輩として対応するよう心掛けている。ちゃん付で呼ぶことの無い対応を徹底している。 (外部評価) トイレの誘導時の声かけは大声を出さないようにしており、見守りだけの利用者に対しては、トイレの外で待機する等タイミングをみて声かけを行っている。入浴時にも利用者の恥辱心に配慮し支援しており、利用者に対する声かけもなれなれしくならない様気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) スタッフが利用者さんとの話の中で、希望があれば管理者に報告し、実現できるよう勤めている。また本人が話しやすい雰囲気づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入居者さんの生活のペースを理解し、個々の希望する一日が過ごせるよう心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に理容師さんに来てもらっている。日々の身だしなみについては服を選んでもらったり、自分で選べる機会を設けるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者さんに食べたいものを聞いたりすることもある。テーブル拭きや食器の片づけなどできることをしていただくよう心掛けている。お誕生日には手作りのケーキでお祝いし、喜ばれている。	
			(外部評価) 同じメニューにならないよう注意しながら、冷蔵庫の食材や畑の野菜を使って献立を決めている。利用者も野菜の下ごしらえや食器洗いやお盆拭き等できることを職員と一緒にやっている。毎回手づくりの食事を提供しているので、ほとんどの利用者が残さないで食べている。管理栄養士の資格を持つ職員も加わったので、今後は栄養バランスについても配慮できるようになると期待している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の摂食状態に応じて食事形態を変えている。また、使いやすい食器の工夫もしている。水分がとりにくい方には嗜好品を提供したりしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを実施している。うがいができない方はガーゼで拭う等工夫している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 入居時に排泄パターンの把握に努め、その人に合ったトイレ誘導を行っている。なるべくトイレで排泄できるよう実践している。 (外部評価) 利用者の排泄パターンを把握して、昼間はなるべくトイレで排泄ができるよう、声かけや誘導を心がけている。夜間は睡眠を優先する利用者もいるが、訪室時にパットを確認する等、個別に対応している。排便状態についても把握し、緩下剤等を服用して様子を見る場合もある。トイレには男性用の便器も備え付けられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 下剤のみに頼ることなく、食事・運動・トイレに座ることで便秘予防に努めている。必要に応じて下剤は使用するが、できるだけトイレで排便できるようにしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ご本人の希望で、曜日の指定がある方には、毎回その日に入浴していただいている。またお風呂の好きな方には毎日声をかけ希望があれば入浴していただいている。 (外部評価) 入浴については、利用者の希望を聞き対応しており、利用者が希望すれば毎日でも入浴が可能であり、入浴の順番もできるだけ希望に沿うようにしている。なお、入浴が苦手な利用者に対しては、時間をずらしたり、職員を変えるなどしており、気兼ねなく入れるよう支援している。また、特定の親族が声をかけると入浴する利用者もいるので、親族の協力を得る場合もある。浴槽は特殊浴槽も設置されており、利用者の状態に合わせて入浴ができるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の希望に応じて日中も居室で休んでいただいている。夜間の睡眠の妨げにならないよう適度な休息を心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬の際には服薬後チェック表に記入している。個々の薬の作用については個人差があり今後勉強していく。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々笑って過ごせるよう、気分転換ができるようスタッフも笑顔で対応し、入居者さんも笑顔でいられるように支援している	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族の方が外出支援をしてくださることがある。天気の良い日には、庭に出て花の水やりや畑の様子など見て、外の空気に触れられるように支援している。 (外部評価) 天気の良い日は玄関前のベンチでひなたぼっこをしたり、事業所の周囲を散歩したり、また花の水やりや畑に行く等外気に触れる機会を持てるよう支援している。お花見やユニット毎でのドライブ、地元の小学校の運動会やすもう大会に招かれたり、家族と一緒に外出する利用者もいる。	管理者及び職員が交替したため、外出の機会が少なくなっていたが、機会をとらえて外出の機会を増やそうと計画している。今後は、家族の協力も得ながら、外出の機会を増やせるようになることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者様が金銭を管理することはない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者様に手紙が来たときは、代読したり電話をかけて話が出るように支援したりした。本人の希望があるときは家族に電話をかけて話していただくこともある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関入口に花を常に起き、家庭感を出せるよう努力している。また最近の利用者さんの写真を貼ったりし、馴染みの場所であることが認識出来るようにしている。</p> <p>(外部評価) 玄関には季節の花が飾られ、家庭的な雰囲気づくりがされている。また、オープンキッチンからは利用者がよく見えるようになっており、見守りながら調理をすることができる。居間や廊下には利用者の日常がよく分かる写真が飾られている。ユニット間は普段は仕切りがされているが、イベント等行う時には仕切りを外し広くして使用するなど工夫している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) テーブルの椅子に座っていることが多いが、ソファでくつろがれる人もおり、自分の過ごしやすい場所で過ごしてもらっている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 馴染みの家具がある方は持ってきていただいている。個室は自由に飾り付けしていただいている。</p> <p>(外部評価) カーペット、こたつ、座椅子、テレビ、ぬいぐるみ、家具等を持ち込んでいる利用者や、転倒の危険性があるため畳の上に布団を敷いている利用者もおり、利用者に合わせて部屋づくりがされている。また、荷物が充分収納できるクローゼットが備え付けられていたり、壁には利用者と家族の写真や習字等利用者の作品も飾られており、居心地のいい空間となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) バリアフリーの環境の中で転倒などの危険が内容にしている。また下肢の弱い方で夜間のトイレが不安な方には、ポータブルトイレを利用していただいたりしている。</p>	